

KT師の重賞本命と見解

天皇賞(秋)

たしかに、上位 4 人気は強いのですが

今の馬場状態。このコースの特性。
天皇賞秋で有利なローテーションを重視すれば、
もっとピッタリな魅力的な馬がいます。

該当馬はカイザーミノル。
同馬を本命とします。

先日の亀谷競馬サロンの田端さんとの対談でも話題になりましたが、
東京芝 2000m。特に古馬混合戦はロードカナロアだけを覚えても勝てる条件。

先週も 1 頭しか出走しなかったオメガヴィラサンが 8 人気の人気薄で 3 着。
ライブ配信でも同馬を推奨。

先々週のオクトーバーS も 3 頭しか出ていなかった
カナロア産駒が 1、3、4 着。すべて 5 人気以下。

この 3 頭をサロンのイベントでも推奨しましたが、
レース後は「1-3 着までならもっと儲かったのに！」と
バチが当たりそうな愚痴まで出た始末。

何といってもカナロア産駒のアーモンドアイが当レースを連覇中。
たしかに、アーモンドアイは例外的な名馬ですが、その名馬を生み出したのは
カナロアであることも当たり前の事実。

3 年前の勝ち馬も同じくキングマンボ系のレイデオロ。

カイザーミノルは母親の配合も高速ダート中距離がベスト。

クロフネ産駒のアエロリットが逃げて粘るように
高速ダート中距離適性の高さも今の馬場、この舞台では強調材料。

血統構成から、前走のラスト 1 ハロンと同じ脚を持続することは可能。

前走は毎日王冠。天皇賞秋で圧倒的に有利なステップ。

過去 10 年、5 人気以下で馬券になった馬のうち 60%以上は毎日王冠組。

出走比率 30%を大幅に上回っています。

上位人気 4 頭はすべて休み明け。

その前走は 400m の大幅な距離延長。
今回の延長ステップの方が乗りやすく、ポジショニングも
前走より楽になる可能性のほうが高いと見立てています。

また、今日の馬場は緩い流れの差し競馬をしていた馬に不利。

メインのアルテミス S も前走新馬戦経験馬は全滅。

新馬の緩い流れしか経験していなかった馬が
走りづらい馬場だったことも影響したのでしょうか。

逆に速い流れを経験している馬には有利。

近 3 走のうち 2 戦が 1400m。3、4、5 走前は速い流れで先行。
メンバー中、近走で最も速い流れを経験している馬。

スピード持続の東京芝 2000m の舞台はまだ未経験。
この条件は、このメンバーでも最も強い可能性は秘めています。
相手は人気順でいいでしょう。